

議長定例記者会見 会見録

日時：平成26年12月24日 13時～

場所：全員協議会室

1 発表事項

- 「平成26年三重県議会10大ニュース」の発表について

2 冒頭の発言事項

- 平成26年を振り返っての感想

3 質疑項目

- 「平成26年三重県議会10大ニュース」の発表について
- 衆議院議員総選挙について
- 三重県議会の今後の改善点について
- 特別職報酬等審議会について

1 発表事項

- 「平成26年三重県議会10大ニュース」の発表について

（議長）それでは、議長定例記者会見を始めさせていただきます。初めに、平成26年三重県議会10大ニュースを発表させていただきます。

三重県議会10大ニュースは、県議会の取り組み状況を広く発信して、県議会に対する関心を高め、県議会への参加意識の高揚を図る観点から、県民参加の手法を活用して選定しております。

選定結果については、お手元に配付しました資料のとおりでございますが、読み上げさせていただきます。

- ・「みえ現場 de 県議会」を開催（2月、11月）
- ・三重県食の安全・安心の確保に関する条例（議員提出条例）の改正（3月）
- ・政務活動費を減額（3月）
- ・本会議、委員会等へのタブレット端末等の持込みに関する申合せを決定（3月）
- ・「みえ県議会だより」のデータ放送を開始（4月）
- ・議員の定数、選挙区等の見直しに関する条例の改正（5月）
- ・「障がい者雇用促進調査特別委員会」を設置（5月）
- ・三重県議会が議会改革度調査で第1位（6月）
- ・「みえ高校生県議会」を開催（8月）
- ・台風11号による被害への対応（9月）

以上が10大ニュースでございます。

投票結果につきましては、配付資料2ページに掲載していますが、選定にあたりましては、「ホームページ閲覧者と県議会傍聴者」、「eモニター」、「議員」、この3つに区分し、項目ごとの得票数や得票率などを参考に、投票結果を総合的に勘案して10項目を選定させていただきました。

投票結果に対する感想を述べさせていただきますと、県民の皆さんにとっては、「台風被害への対応」や「食の安全・安心の確保」、「障がい者雇用の促進」というような、県民の日々の暮らしに関わる事項への関心が高く、これらへの対応に対する期待感が投票の背景にあるのではないかと考えます。

また、今年は、政務活動費等の問題を契機に、地方議会や地方議員への注目が集まった年でありましたが、「議員の定数、選挙区」や「政務活動費」などへの関心が高いという投票結果からも、県民の方々が議会や議員のあり方を注視していることを感じるところでございます。

さらに、「みえ高校生県議会」や「みえ現場 de 県議会」の開催、「みえ県議会だよりのデータ放送開始」といった広聴広報の取り組みや、「本会議等へのタブレット端末の持込み」などの新しい取り組みにも関心が寄せられており、今後も県民の皆さまの期待にかなう取り組みを、しっかり行っていく必要があると感じています。

発表事項「平成26年三重県議会10大ニュースの発表」については、以上でございます。

2 冒頭の発言事項

○平成26年を振り返っての感想

(議長) 次ですが、以降は特に資料を用意しておりませんが、平成26年を振り返っての感想を述べてみたいと思います。

今年は年末の12月14日に第47回衆議院議員総選挙が実施され、慌ただししい師走となりました。国においては、本日、特別国会が召集され、新しい内閣が発足されようとしています。新内閣には、安定した国政運営を行うことで、我が国の経済、特に地方経済の回復を実現するとともに、社会保障の充実や防災対策など、国民が安全・安心に暮らせる社会の構築にこれまで以上に取組まれることを期待しています。また、地方創生については、国の「まち・ひと・しごと創生本部」において、年内にも総合戦略がまとめられると報道されています。県においても地方版の策定が予定されていますが、国においては、これからも地方との意見交換を密にし、地方が地域の実情に応じた施策を主体的に実施することができるよう、取り組んでいただければと考えております。

さて、本県では、今年は熊野古道世界遺産登録10周年を迎え、また式年遷宮後のおかげ年でもあったことから、昨年を引き続き、多くの方々が三重県を

訪れていただきました。来年も、引き続き、「三重県観光キャンペーン」や「三重テラス」などこれまでの取り組みをさらに推進していくことで、多くの方々が三重のさまざまな土地を訪れていただければと思っております。また、今年4月19日に三重県総合博物館「MieMu」が開館し、そして本日はステップアップカフェ「Cottic菜」が男女共同参画センター フレンテみえにオープンしました。これらの施策については、県議会としても大いに注目しているところであり、県当局にはしっかりと取り組んでいただき、成果を上げていただければと考えております。

最後に、本県議会では、今年は先ほどの10大ニュースの発表にもありましたように、委員会での活発な議論や現地調査を通じての政策提言、議員提出条例である「三重県食の安全・安心の確保に関する条例」の改正を通じた政策立案、データ放送による「みえ県議会だより」の情報発信や「みえ高校生県議会」の初開催などの広聴広報活動、さらには議員の定数及び選挙区の見直しを行うなど、さまざまな取り組みが精力的に行われてきたものと考えております。議員任期も残り4ヶ月余りとなり、来年4月には我々県議会議員の選挙が実施されるわけですが、引き続き、さらなる県民福祉の向上に向け、議会としての責務をしっかりと果たしていきたいと考えておりますので、皆様方のご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、1年を通して本県議会に関する情報発信をしていただきました、報道機関の皆様方に心から感謝を申し上げ、私からの平成26年を振り返っての感想とさせていただきます。本当にありがとうございました。

以上でございます、今年1年を振り返った感想等を述べさせていただきます。

3 質疑応答

○「平成26年三重県議会10大ニュース」の発表について

（質問）三重県議会の10大ニュースの発表についてなんですけれども、結果はホームページでの公表でよろしいですか。いつからになりますか。

（事務局）本日です。

（質問）10大ニュースの中で、議長が考える最も注目すべきニュースと、それを選んだ理由を教えてください。

（議長）これは何と申しましても、初の「みえ高校生県議会」に私は注力しておりました。したがって、第一に私としては、10大ニュースの中にあげさせていただきます。それはやっぱり全国で初めての企画でございます。私は若い

高校生が県政に関心を持っていただいて、実際に、その場で、自らが向かって発言したりしたことについては、非常に意義があったと思っております。

(質問) 全国の県議会の中では初ということではなく、三重県議会として初ということでもよろしいですか。

(議長) そうです。そう理解してください。私もそう思っていましたので。

(質問) 投票者数の傍聴者とホームページ閲覧者の、それぞれ前年の数を教えてもらえますか。

(事務局) 本年の投票者総数が857で、e-モニターが716、議員が49、全員でございまして、傍聴者が42、ホームページの閲覧者が50ということです。

(質問) 傍聴者とホームページ閲覧者の前年の数字をお願いします。

(事務局) 25年の傍聴者の数は52で、ホームページ閲覧者は43です。

○衆議院議員総選挙について

(質問) 先ほどの1年の振り返りの中で衆院選にふれられましたけれど、衆院選の結果を振り返りまして、改めて自民の目線から言うと、県内小選挙区では3勝2敗と。比例で公明の元県議である中川さんが当選されて、元津市長の松田さんが当選されたという結果になりましたけれども、この結果を受けての所感とですね、あと全体的に票の動きとかを見てですね、例えば民主が1区、4区で立たない状態でやった選挙なんですけれども、その中でどういった票が動いたのかというふうに受け止められているのか、お答えいただければと思うんですけれども。

(議長) 議長としてなかなかね、実情がですね、我々はつかめないものですから、あまりこの件についてしっかりお答えしにくいご質問なんですけど、三重県政としてですね、結果としては、私は非常にいい結果だったのかなと。経緯はともかくとしてですね、いい結果になったのかなと、私の感想でございます。

(質問) 非常にいい結果というのは、何をもって、何にとって非常にいいということになるんですか。

(議長) 今、自公政権与党でございますので、そこら辺を加味したときにですね、三重県政が今後県政を進めていく上で、結果としてはまあまあいい結果になったのかなと思っております。

(質問) もちろんですね、地方創生とかそういった辺りも、社会保障もそうなんですけれども、安定化、健全化というのも当然そうなんですけれども、今後ですね、集団的自衛権等、安全保障、社会保障ではなく安全保障の方の話が佳境を迎えてくると思うんですけれども、その辺りについてどういった対応を求めたいとか、その辺ご見解ありましたらお願いしたいんですけれども。

(議長) 集団的自衛権の問題、安全保障の問題についてなんですが、この選挙を通してですね、いろいろ私も耳にしました。非常に単純な議論が、議論というかお言葉が返ってくるのがですね、非常に残念で仕方なかったですね。何かって言いますと、例えば集団的自衛権というのはですね、私の考え方としては、長いこと続いてまいりましたこの今の現体制でですね、日本を守ってきたわけでございます。それをですね、じゃあ集団的自衛権やそういう安全保障の問題をですね、すぐにですね、いっぺんに変えてしまって、ある単純なご意見だったんですが、ご自分の息子をすぐに徴兵制にやらなきゃならないんだと、そういうのをね、公の場で語られているんですね。それは非常に私、じくじたるものがございました。そんな簡単なものじゃないと私は思っておりますので、もう少し国家の安全保障という問題からすれば、もう少し大きな観点から、これは考えていくべきものだろうと私は思っております、非常にああいう言葉がどんとどんと公の場でなんなりとごく普通に語られていることについては、非常に私はどうも本当にじくじたる思いでいっぱいございました。

(質問) 元県会議員から国会議員が2人誕生したことについての感想をお願いします。

(議長) 私、議長としては、今も冒頭申し上げましたとおり、三重県の実情を一番分かってくれている、そういう人が国会議員に当選していただき、三重県の置かれた状況をもとに国政でいろいろとご活躍いただくことについては、私は非常に良かったかなとこういう思いでいっぱいあります。

○三重県議会の今後の改善点について

(質問) 先ほど1年間を振り返っての中で、比較的ポジティブな発言の方が多かったかなと思うんですけど、今後三重県議会として、こう改善していったらより良くなるっていう、改善点みたいなものっていうのは。例えば議員発意の

条例を作るだとか、いろいろあると思うんですけど、改善点をどのようにお考えですか。

(議長) 議会改革推進会議というのが今ありまして、改選後も、おそらくこの議会改革推進会議はですね、新たにまた発足されるものと私は期待をしておりますし、そういう改革委員会でもっていろいろと議論されてまいりましたので、さらなる三重県議会の改革の精神は、ぜひこれは継続してやっていただきたい、これはもう言うなら三重県議会としましては全国でも指折りの改革先進県議会でもございますし、改革についてはぜひこの方針に沿って、いろんな改革をしていただくといいのが三重県議会の今後の歩むべき道だと思っております。

(質問) どの点で改革が必要ですか。

(議長) 委員会の議論を待ちたいと思うんですが、ちょっとこの場で、これはということ発言することは慎みたいと思っております。

(質問) 議論を待ちたいということですか。

(議長) はい。

(質問) ただ、議長の立場としては、改革すべき点というのは、その視点から見えてくるものってあると思うんですけど、ないんですか。

(議長) 精神だけは三重県議会としても、先進県議会、日本を代表する県議会でございますので、またそういう結果を残してきましたので、ぜひこれは継続してやっていくことが、三重県議会の歩むべき道だと思います。

○特別職報酬等審議会について

(質問) 先日、特別職報酬等審議会で議長が説明されましたけども、「議員報酬等に関する在り方調査会」の報告を元に説明しましたけども、その中で知事の給料の7割が妥当であるという説明はしませんでしたけども、それはなぜなんですか。

(議長) その7割というの自体がですね、私、その根拠がちょっと曖昧なように思っております。なぜかということに、私自身もその7割の決め方については疑問を持たざるを得ません。確かに知事と議長の役割、責任、これは全然違

いますし、そこら辺を考えた場合の話であろうと思いますが、なぜ70パーセントということにつきましてはですね、ちょっと私も、あまり根拠については曖昧なところが多くて、よう発表しませんでした。これなんかもう少しね、もっと原点からいっぺん少し議論をすべき項目かなとも思いますね。7割が良いのか悪いのか。

(副議長) 資料が全部、報酬等審議会の委員さんのほうには、大森報告ですか、7割ということも示してある部分は全部出させていただいておりますので、委員さんは皆さん方、7割ということは分かっていると思います。あくまでもあれは大森報告で、議会として7割で議論したかというのは、していないのでその辺はちょっと審議会のほうで発言というのがしにくい部分があったので、議長のほうで判断されて説明しなかったということでございます。報酬の件に関して、議長もおっしゃったんですけれども、議員と知事というのは、私も元首長やってたんで、その辺比較というのは非常にしにくい。また、責任分担についても違うわけですから、そこで首長さんと議員さんの比較をすること自体が、報酬面では違うのかなというふうには、常々私自身も思っておりますので、あくまでも大森さんの報告は参考資料としての報告であるというふうには思っております。

(以 上) 13時24分 終了